

第18回風工学シンポジウム	2004年12月1 ～3日	日本学術会議社会環境工 学研究連絡委員自然災害 工学専門委員会 (共催) 日本気象学会他	日本学術会議講堂 (東京都港区六本木 7-22-34)	「天気」51巻第1号 http://wwwsoc.nii.ac.jp/ jawe/
---------------	------------------	---	-----------------------------------	--



大槌シンポジウム 「2003年夏の異常気象に関する研究集会」および 「北太平洋における表層水塊過程」シンポジウムのご案内

研究代表者：東海大学総合教育センター 立花義裕

研究代表者：水産総合研究センター遠洋水産研究所 植原量行

2003年の日本の夏は10年ぶりの記録的な異常冷夏でありました。一方、ヨーロッパでは反対に異常高温に見舞われました。この様に昨年の夏は地球規模で異常な気候状態でありました。これらの現象は最近の地球規模での気候の「おかしな」振る舞いの一環なのか。あるいは、10年スケールの自然変動の一端なのか。あるいは地球規模での温暖化傾向と密接に関係しているのか。残念ながら正確な予測ができていたとは言いがたい状況であります。冷夏の実態とその機構の解明は、今後の気象の長期予報のためにも気象・気候の研究者として是非取り組むべき課題であります。

このシンポジウムでは、「夏の異常な気候」をキーワードにして、関連する分野の最新の研究、調査等の成果を発表し、討論や情報交換を行なうことで、夏の気候変動に関して、研究分野を超えた理解を深めることを目指しています。大循環、ヤマセ、梅雨、大気海洋相互作用、オホーツク海高気圧、ブロッキング、小笠原高気圧、モンスーン、観測、モデル、理論など、様々な立場からの関連研究の発表を歓迎いたします。

特に、日頃相互交流することの難しい現業官庁、民間企業の研究所、独法研究所、大学等の研究者や、気

候、気象、農業気象、海洋研究者が一同に会して議論することはお互いに極めて有意義であると思います。また、ヤマセの実体験が可能な土地、大槌で開催する意義も大きいと思います。

参加申し込みや問い合わせは下記連絡先までお願い致します。

日 程：平成16年8月24日(火)・25日(水) 午前
「2003年夏の異常気象に関する研究集会」
8月25日(水) 午後および26日(木) 午前
「北太平洋における表層水塊過程」

場 所：東京大学海洋研究所
附属国際沿岸海洋研究センター

発表申し込み期限：平成16年6月25日(金)

申し込み方法等詳細：

<http://www.rh.u-tokai.ac.jp/~kamata/sympo.html>

連絡先：東海大学総合教育センター 立花義裕

〒259-1292 神奈川県平塚市北金目1117

Tel：0463-58-1211 (内4823), Fax：0463-59-4047

電子メール：tachi@rh.u-tokai.ac.jp